



ダチョウは、現在生きている鳥の中では世界最大の鳥。飛べない鳥として知られているけど、そのかわりとても速く走ることができるんだ。  
その速さを生み出す特徴的な脚の指を紹介するよ。



ふつう鳥の脚の指は4本だけど、ダチョウの指は2本で、爪は1本しかない。走るときは爪のある指と長い脚を使って馬のように速く、馬より長く走れるんだ。2本脚で走る動物で一番速いといわれていて、その速さはなんと時速60~70km、自動車と同じくらいだね!!

# ZOOっと平川



特集1  
西郷どんが出会った!?  
動物たち〜前編〜

特集2  
飼育員の日  
(オランウータン飼育員の巻)

特集3  
あかちゃん紹介 むぜもんじゃ

## 売店紹介

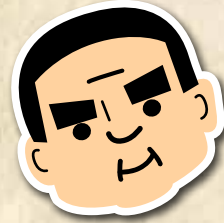
ホッと一息

## スイーツ紹介

園内5ヶ所にある食堂・売店では、季節に合わせたメニューを提供し、皆さんに召し上がっていただいています。南国・鹿児島とはいえ、冬の動物園はちょっと寒い…。そんな動物園でホッと一息する時のお供に、スイーツをご紹介します。ぜひご堪能ください!

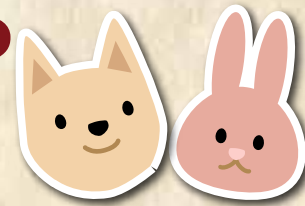
<p><b>ふれあい売店イチオシ!</b></p> <p><b>本格中華の味</b></p> <p>肉いね!! ぶたちゃんまん パンダフルパンダまん</p> <p>各150円</p>	<p><b>クリームチーズの入った 温かいパン♡</b></p> <p>プレッツェル</p> <p>280円</p>	<p><b>食堂イチオシ!</b></p> <p><b>アイスがトロリ... 至福の瞬間!</b></p> <p>雪見ぜんざい</p> <p>350円</p>	<p><b>ホットコーヒーとびったり!</b></p> <p>絶対的な美味しさが 30cm続く!!</p> <p>チュリトス</p> <p>(象舎前売店) 260円</p>	<p>どっちにしようか、 迷っちゃう!?</p> <p>キャラメルサンデー いちごサンデー</p> <p>(遊園地売店) 各300円</p>
---	--	---	--	--





# 西郷どんが出会った!? 動物たち

～前編～



## 動物園と西郷どん!?

2018年(平成30年)は、明治維新150年。また、大河ドラマでは鹿児島<sup>いじん</sup>の偉人・西郷隆盛が取り上げられたこともあり、鹿児島は「西郷どん」(親しみを込めて、こうよばせていただきます)こと「西郷隆盛」で盛り上がりました。動物園と西郷どん、なかなか結び付きがないようですが、ドラマでは川や海、そして山の生き物がたくさん登場し、自然豊かな鹿児島が描かれています。そこで、どうぶつ学習館では「西郷どんが出会った!?動物たち」と題して、西郷どんの足跡<sup>そくせき</sup>を辿りながら、「出会ったかもしれない」様々な動物を紹介する企画展を実施しました。今号と次号の2回に分けて、企画展の内容をご紹介します。

西暦	年齢	主な出来事
1828年	0歳	薩摩国鹿児島城下・加治屋町の下級藩士の子として生まれる
1839年	11歳	喧嘩の仲裁をしたことで怪我を負い、刀を持つことができなくなる(剣術を諦め、学問を志す)
1844年	16歳	郡方書役助(農業の監督指導の仕事)を努める
1850年	22歳	お由羅騒動が勃発し、親しかった赤山鞆負が切腹
1851年	23歳	島津斉興が隠居し、島津斉彬が藩主となる
1853年	25歳	ペリーが黒船で来航
1854年	26歳	島津斉彬の参勤交代に際し、江戸に赴く御庭方役に就任し、斉彬の右腕として活躍
1858年	30歳	島津斉彬が死去 錦江湾にて、月照と共に入水自殺を試みるも、運よく蘇生 幕府の目から逃れるため、奄美大島へ潜居
1859年	31歳	大久保利通に後事を託し、奄美大島龍郷町に到着 島娘の愛加那を妻とする
1862年	34歳	奄美大島から薩摩へ帰還 寺田屋事件が勃発 徳之島を経由し、沖永良部島へ遠島される 生麦事件の勃発
1863年	35歳	薩英戦争の勃発 八月十八日の政変で長州藩を討伐
1864年	36歳	沖永良部島から奄美大島、喜界島を経由して薩摩へ帰還 禁門の変で長州藩を京都から追放 第一次長州征討
1865年	37歳	イトと結婚 上京した後、坂本龍馬を同行して鹿児島へ帰る
1866年	38歳	木戸孝允と共に薩長同盟を締結
1868年	40歳	戊辰戦争で鳥羽・伏見の戦いが勃発 勝海舟と会談し、江戸無血開城を達成 日当山温泉で湯治
1869年	41歳	戊辰戦争が終結
1871年	43歳	廃藩置県を遂行 岩倉使節団が出発し、留守内閣を任される
1873年	45歳	征韓論を巡り、全ての官位官職を辞職して薩摩へ帰郷する
1874年	46歳	私学校を設立
1877年	49歳	西南戦争で死去



西郷隆盛誕生の地



市民の水がめ 甲突川



西郷隆盛蘇生の家



奄美大島で暮らした



湯治をした日当山温泉



西南戦争の最後、この洞窟から指揮をとった

## 豊かな鹿児島で育った西郷どん

西郷どんが生まれ育った鹿児島城下の加治屋町<sup>かじやちやう</sup>に流れる甲突川<sup>こうつがわ</sup>にはたくさんの生き物がすんでおり、今も昔も市民の水がめとして、そして憩いの場所として親しまれています。獲ったウナギやテナガエビが食卓に上がることも、きっとあったはず!また、現在の加治屋町でも運が良ければカワセミ、ミサゴなどの鳥たちに出会うことができます。



獲物を狙うカワセミ



ミサゴ



ミナミテナガエビ

## 田んぼで出会った生き物たち

16歳で「郡方書役助<sup>こおりかたかきやくたすけ</sup>」という農業監督指導<sup>のうぎょう かんとく しどう</sup>の職に就いた西郷どん。田んぼの見回りや米の<sup>せいいくじょうきょう</sup>生育状況の確認を行っていましたが、カエルやイモリなどに出会ったことでしょう。アカハライモリ<sup>あかはいもり</sup>の名で知られる「ニホンイモリ」は、現在は鹿児島市内ではほとんど見かけなくなりました。



ツチガエルのオスとメス



ニホンイモリ

## 生物相豊かな錦江湾へ…

島津斉彬<sup>しまづなりあきら</sup>の死後、同じ志をもった京都・清水寺の住職である月照<sup>げっしょう</sup>を連れて鹿児島へ逃れてきた西郷どんは、錦江湾(鹿児島湾)で入水<sup>いりすい</sup>します。錦江湾は火山活動によってでき、湾奥と湾の中央部は水深200メートルを超える場所もあり、砂浜だけでなく岩場、藻場、干潟など様々な環境から成ります。魚や、それを狙うイルカや鳥がすんでいます。何度も遠島に遭った西郷どん、船の上で豊かな海を見ながら何を思っていたのでしょうか…。



今も国道10号線からみることが出来るハセイルカ(左)とミナミバンドウイルカ(右)

次回は、離島で出会った!?動物たちから紹介します。



# 飼育員の一日



オランウータン  
飼育員の巻

## <担当動物紹介>

### ボルネオオランウータン



2014年に来園した頃のポビー

群れは作らず、単独で生活します。ほぼ樹上で過ごすため、長くて太い腕をしています。

展示場に張り渡しているロープを渡る様子はゆっくりですが、ダイナミック。現在飼育しているポビー(オス・18歳)は2014年3月に東京都多摩動物公園からやってきました。当時はまだあどけなさが残っていましたが、オスの特徴である両頬の「フランジ」が張り出してきた、だんだんと大人の風貌に。

- <学名> *Pongo pygmaeus*
- <英名> Bornean Orangutan
- <分類> 霊長目ヒト科
- <生息地> ボルネオ島
- <主食> 木の葉、果実など

水鳥から  
類人猿まで、  
様々な動物を  
担当しています。



ニシチンパンジー



ラマ



ホオジロテナガザル



マゲシカ



カナダガン



コブハクチョウ



タンチョウ

現在オランウータンはボルネオオランウータン、スマトラオランウータン、タパヌリオランウータンの3種類に分類されますが、平川動物公園ではそのうちボルネオオランウータンを飼育しています。今回はオランウータン担当の飼育員の一日を紹介します。

飼育担当者: 森、小村

私たちが2人で担当しています。その他にはチンパンジー、シカ、ラマ、ツル、水鳥などを担当しています。

## ある日のスケジュール

8:15~

### 朝の巡回と観察、各動物の朝エサの準備

各獣舎を回り動物の様子を観察します。動物の動き、エサの食べ残しの有無、糞の状態などを観察し、動物に異常がないかを確認します。



性皮の確認

※性皮…メスのおしりの周りの皮膚。発情期にピンクに腫れます。

異常はないかな？  
様子を確認します



放射温度計を使って体温測定



9:00~

### 展示場点検、放飼、清掃

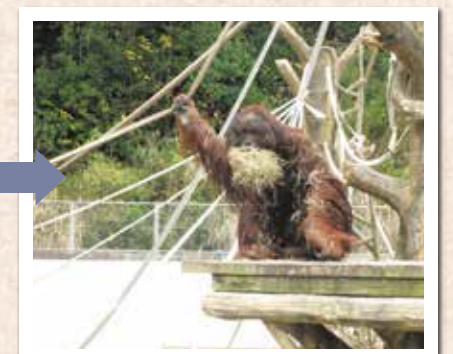
展示場に異常箇所などないか確認し、動物脱出などの事故防止に努めます。問題がないことを確認し動物を展示場へ。出ていくタイミングは動物次第。動物だって出たくないときもあります。そんな時は、慌てず騒がず、じっくり待ちましょう…。



それぞれのペースで  
展示場へ出ていきます



展示場にまとめて置いた乾草を少しずつくわえ、お気に入りの場所まで運んでゆっくり食べます。ロープを渡って運ぶ時は、長い手足や毛をよく観察することができます。





## 10:40～ シカ・ラマ各獣舎の清掃

室内を水で洗い流した後は、展示場の糞や昨日のエサの食べ残しなどを熊手とチリトリでひたすら集めていきます。集めた糞は堆肥になります。



## 12:00～ 昼休み

昼食をしっかり食べて、午後の作業に備えます。

## 13:00～ ミーティング

動物の状態や作業内容、イベントについて報告し、情報の共有を行います。

## 13:30～ オランウータン、チンパンジーのエサの準備と給餌



季節によってメニューは様々

昼のエサを準備し、それぞれに給餌をしていきます。群れで飼育している動物は、きちんとみんなが食べることができるのか、個体間の関係についてもじっくり観察します。ケンカが起こることもしばしば…。トラブルの原因やその後の個体間の関係などしっかり記録することも、大切なことです。

また、毎週日曜日は「オランウータンのお食事タイム」を実施しています。オランウータンを近くで観察することができる他、トレーニングについての解説も行います。



色々な角度から観察



動物たちもこちらをよく観察しています



こんなに間近で！

## 14:00～ ツル・水鳥の展示場清掃と給餌

イベントの合間をぬって、他の担当動物の作業も行います。

## 14:45～ シカ・ラマの乾草給餌

## 16:00～ 各寝室に夕餌を準備し、しっかり施錠

チンパンジー、オランウータンをそれぞれの部屋へ収容していきま。収容後は、個体ごとにトレーニングを行います。手や足、耳、腹など細かいところもよく観察できるように毎日の積み重ねと、動物との信頼関係がとても大切です。毎日の観察と記録は、異常の早期発見につながります。

聴診時の心音は録音して獣医師と情報の共有をしています。



## 17:00～ 日誌の記入

今後の飼育に活かすためにも、その日の動物の体調や行動など、記録の積み重ねが大切です。

## 業務終了

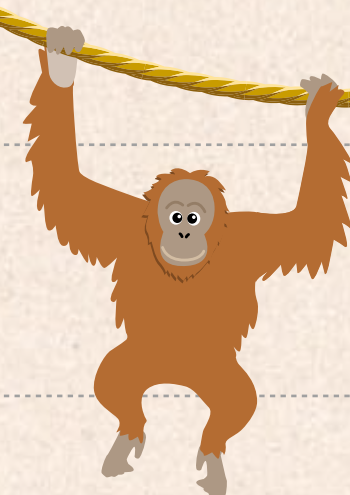
お風呂で汗を流して、今日も一日おつかれさまでした！！

## 飼育員からひとこと

野生下でのオランウータンの頭数は、年々減少傾向にあります。皆さんはその原因の多くが、私たち人間に関係していることを知っていますか？オランウータンは樹上で暮らす動物です。アブラヤシ農園の開発や違法伐採により生息地が減少し、絶滅危惧IB類(近い将来野生での絶滅の危険性が高い)に指定されています。オランウータンだけでなく、動物園にいる動物たちの多くは、生息地の減少や密猟などにより絶滅の危機にあります。来園の際はぜひ、動物たちをじっくり観察してみてください。そして動物のことだけでなく、彼らが直面している様々な問題についても興味をもっていただければうれしいです。



担当者：森、小村





# イベント実施報告

## 「世界キリンの日」にちなみ、イベントを開催しました!

毎年「夏至の日」は「世界キリンの日」。これはイギリスのキリン保全財団(Giraffe Conservation Foundation)が、1年の中で最も日中の時間が長い夏至の日に、最も首の長い動物、キリンのことを考えてもらおうと制定しています。

当園では、2018年6月21日と23日にキリンの大きさなどを間近で体感してもらいながら、飼育担当者の解説を行いました。目の前に木の葉を差し出すと元気よく、おいしそうに食べてくれます。当日は、あいにくの梅雨空でしたが、参加された方々は、迫ってくるキリンにびっくりしながらも楽しく触れ合っていただけたようでした。

日本国内で、わずか7頭(2018年12月現在)しか飼育されていないマサイキリンを皆さんに知っていただくため、今後もふれあいイベントを開催していきたいと考えていますので、お楽しみに!



▲ハート、アヤメ、ハヤテの3頭が寄ってきてくれました!

## 特別講演会「しまの獣医さん〜野生動物を守る取り組み〜」を開催しました

当園では、アマミノクロウサギや奄美群島の希少種の傷病保護、調査研究に取り組んでいます。傷病個体の導入には、奄美大島で野生生物の傷病保護活動に携わる、ゆいの島どうぶつ病院院長伊藤圭子獣医師に協力をお願いしています。少しでも島の自然や生き物を知っていただこうと思い、2018年5月19日に講演会を開催しました。

固有種や希少種の宝庫である奄美群島での傷病保護活動は、非常に重要であり高く評価されています。また近年問題となっているノラネコやノネコ問題についても、獣医師として適正飼育や室内飼育の必要性を説明していただき、とても興味深いお話でした。講演会の最後には、2017年3月にネコによる咬傷を受けて保護されたアマミノクロウサギのケンタも登場し、回復しつつある様子を参加者の皆様に見ていただきました。第二のケンタを生み出さないためにも、皆様に島の状況を少しでも知っていただければと思います。



▲伊藤圭子獣医師に助けられたサシバの「サシオ」も登場



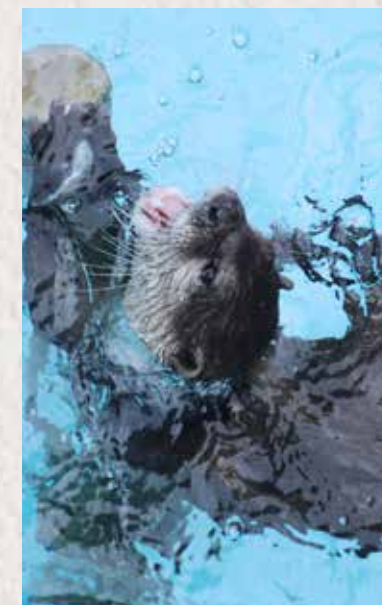
▲間近でアマミノクロウサギも観察できました!

## 「世界カワウソの日(World Otter Day)！」を開催しました

世界カワウソの日とは、カワウソの保全を目的としたイギリスの国際カワウソ保護団体(The International Otter Survival Fund)が、世界中のカワウソが置かれている状況についてもっと知ってもらおうと、2014年に制定しました。毎年5月の最後の水曜日が「世界カワウソの日」で、2018年は5月30日。平川動物公園もこの活動に賛同し、特別ガイドを実施しました。

イベントでは、飼育しているコツメカワウソの給餌風景をご覧いただきながら、その生態や、世界中のカワウソ13種のうち半分以上が国際自然保護団体(International Union for Conservation of Nature:IUCN)のレッドリストに記載されて絶滅の危機にあることなどを解説しました。また、日本にもニホンカワウソが生息していましたが、2012年に絶滅種に指定されてしまったことや絶滅に至ったと考えられる原因、ニホンカワウソが鹿児島にも生息していたことなどお話しすると、ほとんどの方が身近な場所にいたことを知って驚いていました。

テレビや動画サイトなどではかわいらしい姿が映されること多いカワウソたちの、かわいいだけではない様々な面を、これからも伝えていきたいと思います。



▲竹のフィーダーで遊ぶコツメカワウソのヤマト

## 「花しょうぶまつり」を開催しました

園内のしょうぶ園の花しょうぶがきれいに咲き誇る時期に毎年開催している花しょうぶまつりを、2018年も5月26日から6月10日まで開催し、約4000株、約15000本の花しょうぶをお楽しみいただきました。

特に5月27日には鹿児島県立錦江湾高校の茶道部の皆さんにお手伝いいただき、野点を開催し、たくさんの来園者に綺麗な花しょうぶを眺めながら本格的なお茶を楽しんでいただき、大変好評でした。また、期間中はカメラを片手に動物目的でなく花しょうぶのために来園されたお客様も多く、きっと素敵な写真がとれたことと思います。現在しょうぶ園は花が全てなくなり、また来シーズン綺麗に咲くように管理していますのでご期待ください。



▲見ごろの花しょうぶ園



▲野点では本格的な抹茶に舌鼓



# むぜもんじや

むぜもんじや：鹿児島弁でかわいいねの意味

## ミーアキャット

リリー(オス)：2018年2月27日生まれ

主にサバンナなどに生息し、大きな群れを作って行動します。昼間は食べ物を探して動き回りますが、夜は地面に掘った巣穴の中で眠る昼行性です。群れの中には両親以外に「ヘルパー」とよばれる子守り役がいて、子育てや授乳を行い、エサとなる昆虫などの捕まえ方を教えます。

### こんな動物

分類：食肉目マンゴース科  
分布：アフリカ南部  
主食：昆虫類、サソリなど

### 【誕生するも…】

リリーは、生まれた次の日の朝にはぐったりした様子でした。母親が上手く面倒を見ることができなかったのかも知れません。このままでは衰弱してしまうため、やむを得ず人工保育をすることにしました。



▲生後約1週間。目は2週間ほどで開きます。

### 【すくすく成長】

取り上げた時の体重は33.9gでした。飼育員と獣医師が毎日交代で面倒を見て、時には自宅まで連れ帰ることもありました。初めのうちは人工ミルクを1日に複数回与え、生後1ヶ月ほどでドッグフードなどの固形飼料も与え始めました。その後は生後1ヶ月半ほどでミルクを卒業し、親と同じ馬肉や卵などの固形物を食べるできるようになりました。



▲生後約1ヶ月。毛が生え揃ってきました。



▲生後約3ヶ月。展示場デビュー。

### 【展示場デビュー】

生後2ヶ月ほどで体つきもしっかりしてきたので展示場にいる大人たちと同居させることにしました。最初は初めて見る大人たちにびくびくしていましたが、徐々に慣れ、今では大人と一緒にいても堂々としています。

## ヤクシマザル

ダリア(オス)：  
2018年6月5日生まれ

### こんな動物

分類：霊長目オナガザル科  
分布：日本(鹿児島県屋久島)  
主食：種子、果実、葉、花、根、昆虫など

### 【初めての子育てに奮闘中】

ヤクシマザル舎で初めての赤ちゃんが誕生しました。群れの中では最年少のダンゴにとって初めての出産でした。これまでは子どもっぽい行動も見られましたが、飼育員の心配をよそに、ダンゴは赤ちゃんを大事そうに抱っこしています。表情や行動もすっかり母親らしくなりました。



▲生後3週間頃の様子

## プレーリードッグ

ショコラ(オス)、ルージュ(メス)、ローズ(メス)：  
2018年4月21日生まれ

北米の草原地帯(プレーリー)に群れを作り生息しています。昼間は食べ物を探して動き回りますが、夜は地面に掘った巣穴の中で眠る昼行性の動物です。天敵が近づくと「キャンキャン」と犬のような鳴き声を発することが名前の由来になっています。

### こんな動物

分類：げっ歯目リス科  
分布：北アメリカ大陸  
主食：牧草、木の葉など

### 【誕生】

4月21日朝、寝室内から赤ちゃんの鳴き声が聞こえてきました。そっと覗くと、まだ毛も生えていない3頭の赤ちゃんが産まれていました。

### 【巣箱の外へ】

生後約4週間で初めて巣箱から出てきました。おぼつかない足取りで母親の後を追いかけていました。

### 【展示場デビュー】

生後約6週間で初めて展示場に出ました。不安もいっぱいですが母親がそばにいてくれるので安心です。木の葉やニンジンなどをよく食べます。



▲3頭くっついて寝ています



▲知らない場所にドキドキ



▲展示場で草を食べます

### 【成長の様子】

赤ちゃんの名前は「ダリア」となりました。ダリアは、生後1週間ほどは母親に抱かれたまま1日を過ごしていることが大半でしたが、生後2週間を過ぎた頃からよちよち歩きを始め、生後3週間頃からはずいぶんしっかりと歩き回れるようになりました。

### 【群れの仲間たち】

群れの仲間たちも初めての赤ちゃんに興味津々。ダリアのそばから離れようとしません。父親であるノンタやピーチ(メス)はダリアをそっと見守っています。チョコ(メス)だけは母親のダンゴからダリアを取りあげ、代わりに抱っこしたまま赤ちゃんをなかなか返そうとしない「赤ちゃん泥棒!？」になることもしばしばありました。しかし、ダリアをあやしたり毛繕いをしたりするなど、母親に負けないくらいの母性の強さを感じられ、長い時には、半日ほどダリアを抱っこしてのこともありました。群れの仲間たちはこのようにして子育てを覚えていくのです。



▲ダリア(オス)を抱く母親のダンゴ(左)とそれが気になるチョコ(右)



▲ダリアを抱く「赤ちゃん泥棒!？」のチョコ(左)とノンタ(右)



▲ピーチとダリア

